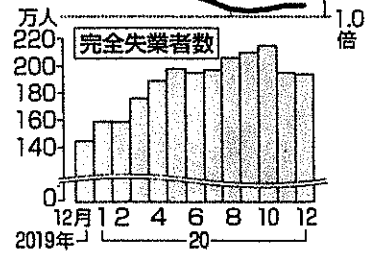
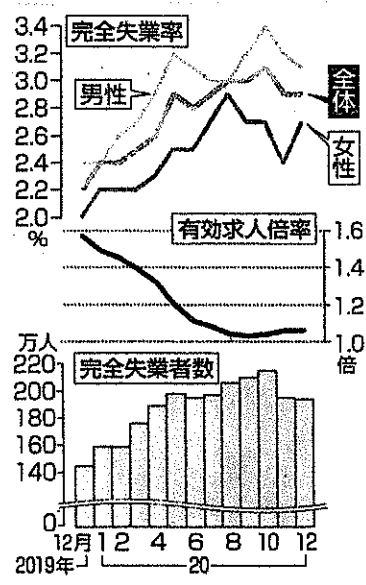


1/30 早稲

非正規労働者初の減少

昨年 コロナ禍で雇用悪化

総務省が二十九日発表した二〇二〇年平均の非正規労働者数は、前年比七十五万人減の二千九十万だった。女性や高齢者の就労を背景に増え続けていたが、比較可能な一四年以降初めて減少に転じた。新型コロナウイルス感染拡大に伴う企業の経営悪化で、解雇や雇止めが増加したためとみられる。失業率も悪化し、コロナ禍による景気低迷が響き、雇用情勢の悪化が鮮明となった。



厚生労働省が同日発表した二〇年平均の有効求人倍率は、前年比〇・四二倍低下の一・一八倍で、リーマン・ショック後の〇九年の〇・四一を越える大幅な悪化。下げ幅としても、オイルショックの影響が続いた一九七四年と七五年に続き過去三番目の大きさだった。緊急事態宣言の再発令に伴い、足元の経済活動も停滞しており、今後も厳しさを増す恐れがある。

二〇年平均の完全失業率は〇・四倍上昇の二・八%、完全失業者数は二十九万人増の百九十一万人で、ともに〇九年以来十一年ぶりに増加。雇用調整助成金の特例など休業保障の充実を背景に、職に就いているのに働いていない休業者数も、八十万人増の二百五十六万人で過去最多となった。

非正規労働者数の内訳は、男性が二十六万人減の六百六十五万人、女性が五十万人減の千四百二十五万人。正社員は三十六万人増の三千五百二十九万人だった。

有効求人倍率が一を超えれば、求人数が求職者を上回っている。リーマン後は年平均で最低の〇・四七倍まで下がった。

二〇年十二月は、有効求人倍率(季節調整値)が前月と同じ一・〇六倍。完全失業率(季節調整値)は二・九%で、前月から横ばいだった。

失業率(季節調整値)は2・9%で、前月から横ばいだった。

武田良太総務相は二十九日の記者会見で「新型コロナウイルスの影響が引き続き大きく表れている。今後も十分に注視していきたい」と述べた。